

博士卒での研究開発職

東レ株式会社 先端材料研究所
医療システム研究室 富岡 大祐

1. はじめに

私は2025年に応用化学専攻の博士後期課程を修了して工学博士となり、東レ株式会社に入社しました。まず初めに、学部4回生から6年間にわたりご指導いただいた恩師の松崎典弥教授に心より感謝申し上げます。東レ株式会社は今年で創立100周年の節目を迎え、「研究・技術開発こそ、明日の東レを創る」との信念に基づき、先端材料の研究・技術開発を推進しています。私自身、大阪大学で培った経験を活かして、日々研究開発の業務に取り組んでおります。

2. 博士号を取ってから企業へ就職した理由

「そもそもなぜ博士課程に進学してから企業に就職したのか？」と疑問に思う人もいるかもしれません。もともと修士課程修了後に就職する予定で就活を始めていたのですが、自分が研究者としてのスキルを上げていくにはどうしたらいいか考えていくうちに、博士課程に進学することが結局一番いいという結論に至りました。会社に入って1年が経ちましたが、やはり企業の研究開発においても、サイエンスの理解や新規テーマの創出は重要であり、博士課程で培った知識・経験が大いに活かされております。今でも博士課程に進学して本当によかったと感じておりますし、当時進学を迷っていた自分の背中を押してくれた松崎先生にはとても感謝しております。大阪大学の後輩たちもぜひ博士課程に進学してほしいです。

3. 現在の業務について

私は現在、東レで医療材料の研究開発に携わっております。東レと言えば、ヒートテック等の衣料繊維や航空機用炭素繊維のイメージが強いと思いますが、透析治療などに用いられる血液浄化カラムやコンタクトレンズにも東レの素材が使われております。医療材料の研究では、高分子化学、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーなど幅広い分野の知識・技術が必要であり、それぞれ異なるバックグラウンドを持つ研究者たちと協力して開発に取り組んでおります。また基礎研究で得られた知見を、製系やカラム設計といった東レの要素技術と組み合わせる製品化まで持つっていくことも重要な仕事です。博士号を取得し、研究についてはプロの自覚がありますが、製品化の部分はまだまだ経験不足なので、これから色々学んでいきたいと考えております。このように、基礎研究から製品化に至るまで様々な業務に関わることができており、日々成長とやりがいを感じながら仕事しております。

4. 今後の抱負

「サイエンス」を大切に仕事に取り組みたいと考えております。研究開発においてサイエンスを追求し、そこで得られた知見から新しい材料を創出するのが理想です。一方、創出した材料は製品の形で世の中に送り出し、社会や顧客のニーズを満たす必要もあります。サイエンスと社会実装の両方の視点に立って研究開発を遂行できるよう、これからも成長を続けていきたいと思っております。

(応用自然科学科 応用化学コース 2020年卒、応用化学専攻 2022年前期修了、2025年後期修了)